

2020年度 事業報告書

2020年4月 1日から
2021年3月31日まで

公益財団法人 国際文化会館

目次	頁
I. 組織体制	3
II. 募金活動	5
III. 総務関係事項	6
IV. 施設管理	7
V. 会員関係	8
VI. プログラム活動	12
VII. 国際文化会館の運営	30

I 組織体制

A. 評議員会・理事会

2020年度中に開催された評議員会・理事会は、以下の通りである。

臨時評議員会	2020年4月30日開催(書面開催)
定時評議員会	2020年6月11日開催
第1回理事会	2020年5月27日開催
第2回理事会	2020年6月11日開催
第3回理事会	2020年8月31日開催
第4回理事会	2020年9月28日開催(書面開催)
第5回理事会	2021年2月27日開催
第6回理事会	2021年3月22日開催

B. 評議員・理事・監事等

2020年度中の評議員・理事・監事等の異動は、以下の通りである。

【評議員】

<2020年6月11日付>

(重任) 小川 忠	モンテ・カセム	
アン・ケーリ	添谷芳秀	
高原明生	竹中千春	ディビッド・D・バスカビル
松本 大	村上陽一郎	吉本光宏
(新任) 河野通和	久保文明	昼間祐治
(退任) 阿川尚之	池田祐久	行天豊雄
渋沢雅英	チャールズ・レイク	
吉澤健治		

<2020年6月23日付>

(新任) 田中達郎

【理事】

<2020年6月11日付>

(重任) 伊藤実佐子	小林いずみ	小林正美
近藤正晃	ジェームス 千野境子	渡辺 靖
(新任) 小林公成	宮田裕章	富川秀二

(退任) 久保文明 国分良成 後藤乾一
 小松諄悦 丸山 勇

【代表理事】

< 2020年6月11日付 >

(重任) 近藤正晃ジェームス

(新任) 緒方克明

【監事】

< 2020年6月11日付 >

(新任) 池田祐久 小川陽一郎

(退任) 手塚正彦

【顧問】

< 2020年6月11日付 >

(重任) 番場孝司

(新任) 丸山 勇

【名誉顧問】

< 2021年3月22日付 >

(再任) 明石 康

2020年度末現在の評議員・理事・監事等の人数は、評議員18名、理事13名、監事2名、顧問3名である。

C. 委員会

2020年度中に開催された委員会は、以下の通りである。

- ・再開発検討委員会 第5回 2020年4月16日開催
- ・70周年記念委員会 第1回 2021年2月1日開催

II 募金活動

A. 助成金・寄付金

2020 年度中に領収した各種助成金・寄付金の主たるものは、以下の通りである。(千円未満四捨五入)

	(千円)
The Commons Project	11,071
日米国際金融シンポジウム	10,800
日米友好基金	7,232
(独)国際交流基金	4,290
Hasso 会	3,300
三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング	3,210
(一社)アジア・ソサエティ	2,197
シャハニ・アソシエイツ(株)	2,000
Tanaka UK Japan Educational Foundation	1,356
(一財)MRA ハウス	1,317
大成建設(株)	1,000
(一社)霞会館	300
入会時寄付金	35,425
諸寄附	74,280

Ⅲ 総務関係事項

A. 六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合

地区住民・地権者の協議機関である「六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合」（2008年設立）に会館も参加し、この地区のより良い街づくりについて話し合っている。

2014年7月に基本計画改良案が策定され、これに基づき事業が進められていたが、震災復興やオリンピック特需などによる建設コスト増加等の影響や、23区の大学等の学生の収容定員抑制に関する法律制定を受け、施設計画の変更が検討され、2019年11月に新たな新基本計画案が策定された。コロナ禍で予定がずれ込んでいるが、都市計画素案の策定に向けて事業が進められている。

IV 施設管理

A. 施設管理

館内の案内表示がわかりにくいことから、デジタルサイネージによる館内案内図を入口に設置するなど、利用者の利便性を向上させた。

老朽化した既存設備の更新や漏水により補修が必要になった壁の工事などを行った。また、ホールのブラインドは一部が手動となっており壊れやすく使い勝手が悪いため電動ブラインドに交換をした。

V 会員関係

A. 個人会員

2020年度は、新規入会が216名（日本人192名、日本人以外24名）あり、昨年度比2名減少（日本人28名増、日本人以外30名減）した。退会届提出、死亡、会費滞納による退会者は122名（日本人83名、日本人以外39名）で、昨年度比16名減少（日本人15名減、日本人以外1名減）した。これにより全体として94名の会員数の増加（日本人109名増、日本人以外15名減）とり、2021年3月31日現在、日本人会員2,349名と日本人以外45カ国（地域）の会員842名の合計は3,191名となった。

	日本人	日本人以外	小計	合計
新入会員	192 (89%)	24 (11%)		216 (100%)
退会	55	9	64 (53%)	
死亡	25	12	37 (30%)	
会費滞納	3	18	21 (17%)	
小計	83 (68%)	39 (32%)		122 (100%)
国籍変更	0	0		
増減	+109	-15		+94

B. 法人会員

2020年度の新規入会及び増口は13法人13口で、昨年度比3法人3口減となった。一方8法人8口の退会があった。これにより法人会員数は昨年度比5法人5口増加し、2021年3月31日現在、合計184法人209口となった。

	法人数	口数	昨年度比
4口 法人	2	8	0 (0口)
3口 //	4	12	0 (0口)
2口 //	11	22	0 (0口)
1口 //	167	167	+5 (+5口)
計	184	209	+5 (+5口)

C. 図書会員

新規入会者は 20 名、退会者は 23 名で、2021 年 3 月 31 日現在、図書会員は 10 カ国 121 名となった。

D. 総収入

2020 年度の図書会費を含む会費収入は、¥77,340,550 で、昨年度比¥3,249,630 増加し、また入会時寄付金収入は¥35,425,000 で、昨年度比¥7,040,000 増加した。法人会費収入は¥33,260,000 で、昨年度比¥1,620,000 減少した。

	2020 年実績	予算	2019 年実績
個人会員費	¥77,340,550	¥75,000,000	¥74,090,920
入会時寄付金	35,425,000	26,000,000	28,385,000
法人会員費	33,260,000	33,000,000	34,880,000
合計	<u>¥146,025,550</u>	<u>¥134,000,000</u>	<u>¥137,355,920</u>

個人会員国籍別統計

(2021年3月31日現在)

国籍／地域	計	新入会員 (+)	退会 (-)	死亡 (-)	会費滞納 (-)	計
	2020年 3月31日					2021年 3月31日
オーストラリア	35	0	0	0	1	34
オーストリア	3	1	0	0	0	4
バングラデシュ	1	0	0	0	0	1
ベルギー	4	0	0	0	0	4
ブラジル	1	0	0	0	0	1
カナダ	34	2	0	0	0	36
中華人民共和国	7	0	0	0	0	7
チェコ	1	0	0	0	0	1
デンマーク	1	0	0	0	0	1
エクアドル	1	0	0	0	0	1
エリトリア	1	0	0	0	0	1
フィンランド	3	0	0	0	0	3
フランス	13	0	0	0	0	13
ドイツ	27	0	0	0	0	27
香港	4	1	0	0	0	5
ハンガリー	2	0	0	0	0	2
インド	9	1	0	0	0	10
インドネシア	4	0	0	0	0	4
アイルランド	4	1	0	0	0	5
イスラエル	1	0	0	0	0	1
イタリア	6	0	0	0	1	5
日本	2,240	192	55	25	3	2349
ケニア	1	0	0	0	0	1
韓国	24	1	0	0	1	24
マレーシア	3	0	0	0	0	3
メキシコ		1	0	0	0	1
ネパール	1	0	0	0	0	1
オランダ	8	0	0	0	0	8
ニュージーランド	2	0	0	0	0	2
ノルウェイ	1	0	0	0	0	1
フィリピン	3	0	0	1	0	2
ポルトガル	0	0	0	0	0	0
ロシア	1	1	0	1	0	1
サウジアラビア	1	0	0	0	0	1
シンガポール	6	1	0	0	0	7
スペイン	0	0	0	0	0	0
スリランカ	3	0	0	0	0	3
スウェーデン	7	0	0	0	1	6
スイス	5	0	0	0	0	5
シリア	1	0	0	0	0	1
台湾	6	0	0	0	0	6
タイ	10	0	0	1	0	9
トルコ	3	0	0	0	0	3
イギリス	54	1	0	0	1	54
アメリカ	554	13	9	9	13	536
ベトナム	1	0	0	0	0	1
日本人	2,240	192	55	25	3	2,349
日本人以外	857	24	9	12	9	842
合計	3,097	216	64	37	12	3,191

法人会員分布
(2021年3月31日現在)

県／国	4口	3口	2口	1口	法人数	口数
千葉			1	1	2	3
東京	2	3	9	143	157	178
神奈川				1	1	1
富山				1	1	1
愛知				1	1	1
滋賀				1	1	1
大阪		1	1	2	4	7
岡山				1	1	1
福岡				1	1	1
沖縄				1	1	1
茨城				1	1	1
ドイツ				2	2	2
オランダ				1	1	1
イギリス				1	1	1
アメリカ				9	9	9
合計						
法人数	2	4	11	167	184	
口数	8	12	22	167		209

VI プログラム活動

A. 若手リーダーのネットワーク構築とエンパワーメント

1. アジア・パシフィック・ヤング・リーダーズ・プログラム (APYLP)

アジア・パシフィック・ヤング・リーダーズ・プログラム (APYLP) は、来る数十年にわたりアジア太平洋地域の平和と繁栄を担っていく次世代のためのコミュニティで、地域内のさまざまなリーダーシップ・プログラムのフェローたちを繋ぎ、継続的な研鑽の機会を提供することで、新たな取り組みを生み出し、こうした次世代コミュニティの活動の拠点となる「場」を提供する。活動の柱として、APYLP 参画団体が中心となって年数回のジョイント・セッションを、日本をはじめアジア太平洋地域各地で開催する。

2020 年度、コロナウィルス拡大の影響を受け、オンライン上で下記 7 回シリーズのウェビナーを開催し、アジア太平洋地域のリーダーとの対話の場を創出し、知的・文化交流を行った。一部ウェビナーは下記新渡戸リーダーシップ・プログラム、Architalk、日印対話プログラムと合同で開催した。

共催：アジア・ソサエティ・ジャパンセンター

シャハニ・アソシエイツ株式会社

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング

助成：国際交流基金アジアセンター

MRA ハウス

Tanaka UK Japan Educational Foundation

協賛：大成建設

➤ オードリー・タン氏との対話 (2021/1/15)

スピーカー：

オードリー・タン (台湾デジタル担当政務委員)

司会：

道傳愛子 (NHK 国際放送局シニア・ディレクター)

ファースト・クエスチョネア：

薬師 弘幸 (独立行政法人国際協力機構アフリカ部計画・TICAD 推進課)

ジャイディープ・ハルディカール (フリージャーナリスト/ALFP フェロー)

➤ コロナ禍における教育格差と新しい時代の教育実践 (2021/1/22)

ビデオメッセージ：

マララ・ユスフザイ（教育活動家、2014年ノーベル平和賞受賞者）

スピーカー：

小林りん（UWC ISAK ジャパン共同創設者・代表理事）

キャシー松井（アジア女子大学支援基金財団理事会メンバー）

司会：道傳愛子（NHK 国際放送局シニア・ディレクター）

ファースト・クエスチョネア：

鈴木勇貴（YUBU CAMP 主宰 / 公益社団法人 CISV 日本協会理事 / 新渡戸リーダーシップ・フェロー）

アンベス・オカンポ（アテネオ・デ・マニラ大学歴史学科 教授 / ALFP フェロー）

ドン・スン（南京財経大学外国語学院 教授 / ALFP フェロー）

➤ アジアの世紀—21世紀のテクノロジーと地政学（2021/1/29）

スピーカー：

パラグ・カンナ（グローバル戦略アドバイザー、FutureMap 創設者）

司会：

近藤 正晃ジェームス（国際文化会館理事長）

ファースト・クエスチョネア：

ジャイクマール・シャハニ（シャハニ・アソシエイツ株式会社 会長）

向山淳（一般財団法人アジア・パシフィック・イニシアティブ主任研究員 / 新渡戸リーダーシップ・フェロー）

イミティアズ・グル（安全保障研究センター常務理事・創設者 / ALFP フェロー）

マリテス・ダンガイラン・ヴィトウグ（「Rappler（ラップラー）」エディター・アット・ラーズ、作家 / ALFP フェロー）

➤ 未来の建築—新しい空間とつながりの創造にむけて（2021/2/5）

スピーカー：

藤本壮介（建築家）

マン・サム・ウォン（建築家、WOHA 設立者）

司会：

フィオナ・ウィルソン（『モノクル』アジア支局長）

ファースト・クエスチョネア：

マルコ・クスマウィジャヤ（インドネシア出身 アーバニスト / ALFP フェロー）

中西玲人（ポートランド日本庭園財団 上席執行役員 / 新渡戸リーダーシ

ップ・フェロー)

➤ アジアにおける#MeToo—性暴力に共に立ち向かうには (2021/2/12)

スピーカー :

伊藤詩織 (ジャーナリスト、ドキュメンタリー映像作家、2020 年米誌タイム「世界で最も影響力のある 100 人」選出、Asia 21 ヤング・リーダー)

ビデオメッセージ :

トム・ナゴルスキー (アジア・ソサエティ 副会長)

司会 :

道傳愛子 (NHK 国際放送局シニア・ディレクター)

ファースト・クエスチョネア :

サラ・ホセイン (バングラデシュ最高裁法廷弁護士/Asia フェロー)

カレン・ライ・ユ・リー (ペナン女性開発公社プログラム・マネージャー / ALFP フェロー)

与那嶺涼子 (外務省総合外交政策局女性参画推進室事務官 / 新渡戸リーダーシップ・フェロー)

➤ アジアにおけるLGBTQと同性婚—誰もが暮らしやすい社会とは (2021/3/5)

スピーカー :

ジェニファー・ルー (Taiwan Equality Campaign 事務局長)

杉山文野 (株式会社ニューキャンバス 代表取締役)

司会 :

道傳愛子 (NHK 国際放送局シニア・ディレクター)

ファースト・クエスチョネア :

コン・リッディ (タイ・フィルムアーカイブ 副所長、バンコクポスト紙元編集者 / ALFP フェロー)

菅大介 (株式会社チェリオコーポレーション 代表取締役社長 / アジア 21 フェロー)

➤ アジアにおける都市の未来～ウェルビーイングを追究するスマートシティの在り方 (2021/3/26)

スピーカー :

チョン・ジェスン (韓国科学技術院)

エルウィン・ビライ (シンガポール工科大学教授)

司会：

フィオナ・ウィルソン（『モノクル』アジア支局長）

ファースト・クエスチョネア：

金子素子（株式会社アルメックVPI 執行役員 海外事業本部 総合計画部
R&Dセンター/ 新渡戸リーダーシップ・フェロー）

2. アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム（ALFP）

ALFPは、独立行政法人国際交流基金との共催により、1996年度に開始した。以来20余年にわたり実施されてきた招聘事業では、さまざまな分野において際立ったリーダーシップを発揮している専門家を、日本を含むアジア諸国から毎年7～9名フェローとして招聘し、2カ月間の知的共同作業を通じて相互理解と共通の問題意識を醸成するとともに、アジア域内での分野を超えた人的ネットワークの構築を目指してきた。国際交流基金アジアセンターとの共催が2020年度をもって終了することを受け、フェローの招聘は2018年度で終了した。事業開始以来招聘したフェローの数は139名にのぼる。

さらに2018・19年度はフォローアップ事業を実施し、元フェローを登壇者、寄稿者とした講演会（全4回）やウェブマガジン（計6号）を通じて、ALFPの成果を広く社会に周知・還元するとともに、国境を越えた知的対話の機会と問題意識共有の場を提供した。最終年度となる2020年度は、事業の評価および成果報告を目的に、1996年から2019年までの軌跡をまとめた冊子を作成し、関係者へ配布した。

3. 新渡戸リーダーシップ・プログラム

新渡戸リーダーシップ・プログラムは、新渡戸国際塾の継承事業として2018年度の準備期間を経て、より多様化・複雑化する課題に対し、既存の枠にとらわれない視点や方法で取り組む若手リーダーを発掘する事業として2019年度より開講した。近藤正晃ジェームス（国際文化会館理事長）が代表を務め、これまでに新渡戸国際塾を修了したフェローの中から選ばれた運営委員による企画のもと、「自ら未来をデザインし、実現する～変容するボーダーをどう越えるか」をテーマに、6月から12月まで全13回の講義を行った。

2020年度も開講に向けて準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、開催を見送った。上記APYLPのウェビナーにて新渡戸同窓生に「ファースト・クエスチョネア」としてアジア太平洋地域のリーダーである講師に日本の若手リーダーを代表して質問をいただき、国際的な知的対話の場を醸成するために貢献いただいた。

2020年度は既存のフェローネットワークを強化していく取り組みも引き続き行われた。「高校出張講座」のように新型コロナウイルスの影響で実施できないものもあったが、「同窓会」、「新渡戸サロン」はオンラインを活用して実施され、フェローの繋がりや結束を強め、社会に対して積極的に貢献していくことを可能にした。

[同窓会]

- 新渡戸Day (9月6日) [オンライン]

[高校出張講座]

新渡戸国際塾修了後に社会のために何か行動を起こしたいという同窓会企画委員の思いから2018年度にはじまったプロジェクトで、地方の高校を訪問し、多様な経験をもったフェローが高校生に向けて自身の経験をシェアすることでキャリア教育の一端を担うというものである。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、実施を見送った。

[新渡戸サロン]

フェローの多様な経歴や専門性、ネットワークを活用した勉強会で、各々の知見を深め、新渡戸のネットワークを活用することを目的に開催された。

2020年度は以下のテーマで2回、いずれもオンラインで開催した。

- 新型コロナウイルスの影響と私たちにできること [オンライン] (4月12日)
- 民間企業・経済界から見るコロナの影響と今後の経済・社会のあり方～2030年の日本はどうあるべきか～ [オンライン] (6月27日)

4. HASSO会

戦後70年以上経て未だ文化・歴史的背景の違いによる課題が山積している中、2019年に発足した、立場や世代、性別、国籍、宗教などあらゆる垣根を越えた若手コミュニティ。多様な視点から密度の濃い意見交換を行うことで、新時代の平和と共存に貢献するリーダーたちが協働する機会を創出する事を目指す。行政・政策、学術、ビジネス、NPO・社会起業、テクノロジー、宗教・哲学、アート・デザイン、文化の8分野における才気あるリーダーたちが集まり、思索し、語り合い、創造するための機会と場を提供している。月1回、現代社会のさまざまな課題に対して当事者意識をもって取り組んでいる“Agent of Change”を囲む朝食会を開催するほか、国内外の視察を兼ねた交流ツアーも実施している。2020年度は、以下の7回の朝食会と1回の交流ツアーを実施した。

開催日	タイトル	スピーカーなど
7月10日	Hasso会 #1	皆川 明 (ミナペルホネン デザイナー)
7月27日	Hasso会 #2	藤本 壮介 (建築家) 宮田 裕章 (慶應義塾大学 医学部教授)
8月7日	Hasso会 #3	河瀬 直美 (映画監督)
9月18日 ～ 19日	Hasso会 #4	なら国際映画祭 (河瀬 直美、藤本 壮介、宮田 裕章)
12月1日	Hasso会 #5	太田 雄貴 (日本フェンシング協会会長)
12月4日	Hasso会 #6	杉山 央 (森ビル株式会社 新領域企画部) 脇田 玲 (慶應義塾大学環境情報学部 学部長)
2021年 3月8日	Hasso会 #7	松山 大耕 (妙心寺退蔵院 副住職)
3月30日	Hasso会 #8	スプツニ子! (アーティスト・東京藝術大学准教授)

B. 世界を変える叡智との対話

1. 牛場記念フェローシップ

現代の複雑化した国際情勢を読み解き、時代の一步先を見据える世界的なオピニオン・リーダーを招聘し、グローバル社会が直面する諸課題について意見交換を行うことにより、日本と諸外国との相互理解の増進を試みるプログラムである。滞日中のフェローは、公開講演会と専門家を中心としたセミナー、ワークショップなどに講師として参加するほか、各フェローの希望に応じて非公式な対談やディスカッションの機会を設定する。なお本フェローシップは、牛場信彦記念財団の残余財産の寄贈を受けて実施している。

2020年度は、今後のプログラムの拡大や発展を鑑み、選出方法を見直し、協賛先などを探した上で新たにフェローの選出を試みる予定であったが、コロナウィルス拡大の影響により事業は休止した。

2. 世界的なリーダーの招致

学識、政治、経済、文化等の分野の世界の第一人者を海外から招聘し、会館で講演会等を開催し、会館を世界的な知的交流のハブとして確立することを目指す。対象者としては、国賓級のゲストに加えて、各界を代表する世界的な賞の受賞者などで、日本での講演が特に大きな意義があると考えられる人から選別して招聘する。2020年度はコロナウィルス拡大の影響により海外からの国賓級のゲストが来日する可能性が低いことから事業は休止した。

C. 建築・都市・デザインと社会

1. Architalk ～建築を通して世界を見る～

日本建築界の三人の巨匠（前川國男、坂倉準三、吉村順三）によって設計された会館には、創立当初から現在まで日本の建築界を牽引してきた建築家や世界の建築関係者が会員として多数在籍しており、また国内外からの建築関係者の来館も多い。これらのネットワークを活かし、会館の建物の再生が行われてから10年目にあたる2016年度より、内外で活躍する建築家を招き、現代世界について考えるためのプログラムを開催してきた。

2020年度は、海外から建築家やデザイナーを招聘し、建築をとおして難民、環境、教育など世界的な課題解決にどのように貢献するのかという社会との接点を考えるためのシンポジウムを年2回開催する予定であったがコロナウィルス拡大の影響により海外から建築家の招聘は不可能となり、2021年度に延期した。なお、上記APYLPのウェビナーの建築セッションを本事業との合同で開催した。

2. 建物・庭園ツアー

国際文化会館を語るうえで欠かせない、日本モダニズム建築の巨匠、前川國男、坂倉準三、吉村順三の共同設計による建物と、わが国屈指の京都の名造園家「植治（うえじ）」こと7代目小川治兵衛の作庭による庭園を訪れた人々に案内するプログラム。建物や土地、庭の歴史から、会館の設立に関わった方々の信念を紹介することで、国際社会における会館の意義、ひいては平和な未来について考える契機として2019年度より実施している。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に鑑み、オンライン開催とした。この機会に国内のみならず国外の方々にも参加いただけるよう、アメリカン・フレンズ・オブ・アイハウスとの共催でオンライン・バーチャルツアーを3回実施した。

開催日	テーマ	講師
8月4日	Online Walk-n-Talk at I-House アイハウスの日本庭園バーチャルツアー#1（日英）	重森千青（作庭家）
11月26日	Online Walk-n-Talk at I-House アイハウスの日本庭園バーチャルツアー#2（2020年秋編）（日英）	重森千青（作庭家）
2021年 3月23日	Online Walk-n-Talk at I-House アイハウスの日本庭園バーチャルツアー#3（2021年桜編）（日英）	重森千青（作庭家）

D. グローバルな課題への取り組み

1. 日印対話プログラム

日印平和条約締結から60年を迎えた2012年、日印両国が主軸となり、アジア・太平洋の安定と平和を築くための対話の「場」を創出するため、会館と独立行政法人国際交流基金が共同で立ち上げた人物招聘事業である。2017年度からは、シャハニ・アソシエイツ株式会社との共催事業として実施している。

本プログラムでは、社会のさまざまな問題の解決に向けて、現状を打破するための新しい価値やアイデアを提案している、インド国内で影響力のある人物を、政治・経済・文化・学術・科学など幅広い分野から、年間1～2名、一週間程度日本に招聘する。フェローは、講演会や関連機関の訪問などを通して日本の関係者と意見交換やネットワーク構築を行う。

2020年度は、インドで最初のオリンピック金メダリストであるアビナブ・ビンドラ氏を招聘する予定であったが新型コロナウイルス拡大の影響により来日が中止となった。代わりに上記 APYLP のオンラインウェビナーと合同で地政学

をテーマのセッションを開催し、インド出身のパラグ・カンナ氏(FutureMap 創設者)に登壇いただき、インドを含めたアジアの地政学的現状についてお話しいただいた。

2. 日米国際金融シンポジウム

国際文化会館はハーバード・ロースクール国際金融システム・プログラム(PIFS)との共催で、日米国際金融シンポジウムを実施している。本シンポジウムは、毎年日米交互で開催され、日米両国の政府高官、政治家、金融機関幹部、法律家、コンサルタント、研究者、メディア代表者など 100 名以上が参加し、2 日間にわたって国際金融システムの機能と安定化にかかわる問題について討議を行うものである。

第 23 回シンポジウムは新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、11 月 5～6 日にオンラインで開催され、日米から 110 名が参加、以下の 3 つのテーマについて討議した。

- 米国選挙結果で国際金融システムはどう変わるか
- 2008年国際金融危機後に構築された金融規制は COVID-19危機において金融部門が実物経済を支える上でどのような影響を与えたか
- COVID-19危機は国際的なビジネスと金融の今後にどのような影響を及ぼすか

3. 特別講演会

今日、国際社会はナショナリズムや排外主義の台頭、グローバル化への反動、テクノロジーの急激な進歩など、世界は既成の枠組みや従来の考え方が通用しない時代へと突入している。また、多くの国が「発展」や「成長」、「多様性」に力を注いできた一方で、さまざまな面で生じた分断や格差が際限なく広がりを見せている。そのような中、人々の対話と交流を通して共通の課題の解決に向けて取り組むため、2019 年度より各分野で世界的に活躍する会員の方を特別講師に迎え、年 4～5 回の講演会及びレセプションを実施している。

2020 年度はオンラインで 3 回講演会を開催し、幅広い分野から構成される会員を中心とした参加者が、講演会で問題提起された課題等について理解を深め、社会に貢献してゆく機会の創出を図った。

開催日	テーマ	講師
7月14日	激変する社会と国際文化会館の使命	島田 晴雄（東京都公立大学 法人 元理事長）
9月1日	女性の活躍を阻むもの	上野 千鶴子（東京大学 名誉 教授）
12月10日	共鳴する未来～国境を越えたデー タ・ガバナンスを誰が担うか	宮田 裕章（慶應義塾大学 教 授）

4. 70周年記念事業

国際文化会館は、戦後、米ソ対立によりアジアの冷戦が深刻化する中で設立され、その後の日本と国際社会の平和と繁栄に大きく貢献してきた。設立 70 周年を迎える 2022 年に向けて、70 年前の大胆な取り組みに学び、今後長きにわたり日本と国際社会の平和と厚生向上に寄与していくことを目指す。2020 年度は、これまで国際文化会館が担ってきた社会的役割を再検証し、次代に向けて国際文化会館が果たすべき役割を担う新たなプログラムの準備を整えるために、会館内にプロジェクトチームを発足した。また理事会設置委員会として「70 周年記念委員会」を組成した。

5. Value Co Creation Academy (TCP)

テクノロジーをはじめとする様々な分野から、また分野横断的に新たな社会的価値の創造を行うためのプログラム「Value Co-creation Academy」を本年度から発足した。本プログラムの一環として、新型コロナウイルス感染拡大の影響で国境を越えた人々の往来と交流が停滞するなか、テクノロジーとデータの活用を通じて安全な国境往来を目指す非営利組織「コモンズ・プロジェクト」(The Commons Project; TCP/ 本部 スイス) の活動を日本国内で推進する。この事業は世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター (C4IR) との連携のもとで実施される。

2020年度は、PCR検査結果（将来的にはワクチン接種履歴）を示す世界共通のデジタル証明書「コモンパス」の開発・導入に向け、日本委員会の結成、政府機関や関連業界などステークホルダーとの関係構築、医療機関とのデータ連携の実現、航空会社との共同による実証実験の実施、広報活動等を行った。

6. オンラインセミナー

戦略的パートナーシップを結んでいるアジア・ソサエティ・ジャパン・センターとの共催事業として以下のオンラインセミナー(一部、会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式を採用)を行った。グローバルな視点で、政

治、ビジネス、文化、科学、テクノロジーについて考え、アジアと世界の未来を共創していく機運を醸成するため、2020年度は以下の7回のセミナーを実施した。

開催日	テーマ	講師
4月24日	Japan Macro Outlook – Challenges & Opportunities Beyond The COVID Crisis	キャシー松井(ゴールドマン・サックス証券株式会社 元副会長) ロバート・フェルドマン(モルガン・スタンレーMUFJ証券 シニアアドバイザー) イエスパー・コール(WISDOMTREE INVESTMENTS シニア・アドバイザー)
5月15日	Scientists’ Insights On COVID-19 —Where we are, how we got here, and where we are going?	ピーター・グルース(OIST 学長) メアリー・コリンズ(OIST プロボスト) マヘッシュ・バンディ(OIST 准教授) イエスパー・コール(WISDOMTREE INVESTMENTS シニア・アドバイザー)
5月21日	Japan versus COVID-19 A Conversation with H.E. Taro Kono, Minister of Defense	河野 太郎(元防衛大臣) 彦谷 貴子(コロンビア大学政治学部 准教授) ダニエル・ラッセル(アジア・ソサエティ政策研究所 副所長)
6月23日	Business and Science Perspective on COVID-19 (Session 1)	マヘッシュ・バンディ(OIST 助教授) ファイサル・モハメド(ハーバード大学医学大学院 助教授) エイミー・シェン(OIST 教授) マティア・ウルフ(OIST 准教授) ミシェル・ジャマリスコ(ブルームバーグ シニアアジア経済レポーター)
6月23日	Business and Science Perspective on COVID-19 (Session 2)	ヘレン・ブラウン(元報道記者) アシュウィニ・テワリ(インドステイト銀行 元米国代表)

		イエスパー・コール (WISDOMTREE INVESTMENTS シニア・アドバイザー)
6月25日	Inclusion as Innovation The Past, Present, and Future of Disability Policy in Japan	マーク・ブックマン (ペンシルバニア大学 博士課程)
10月18日	『Breasts and Eggs』著者の川上未映子氏とローランド・ケルツ氏の対談—英訳される日本文学 (日英)	川上 未映子 (詩人・小説家) ローランド・ケルツ (作家)

E. 文化・芸術/人文科学と社会助成事業

1. 日米芸術家交換プログラム (共催日米友好基金)

米国の芸術家5名 (5組) が来日し、3～5カ月間、日本の文化・芸術を研究し、創作活動を行ったり、日本の芸術家と交流を深めたりするプログラムで、日米友好基金 (Japan–United States Friendship Commission) が主催し、国際文化会館は来日中のフェローの活動支援を受託している。1978年より実施され、専門スタッフが来日時でのオリエンテーションや住居の手配、日本人芸術家や関連団体などへの紹介、情報の提供や通訳など、フェローの活動全般をサポートしている。

2020年度は、東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて、特別プログラムとして米国人フェローと日本の芸術家によるコラボレーション展を開催し、アメリカ人フェローと日本人アーティストのチームが、オリンピックのテーマである、調和の精神と日米の友好関係を反映した作品を共同制作する予定だったが、コロナ禍により次年度に延期になった。フェローとして選出されていたのは以下の通り。なおこのコラボレーション展には Tokyo Tokyo FESTIVAL (公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京)からの助成と世田谷区の後援、米日財団の助成をいただく予定である。

ジーン・コールマン Gene Coleman (音楽家)

キャメロン・マッキニー Cameron McKinney (振付家、ダンサー)

スー・マーク&ブルース・ダグラス Sue Mark & Bruce Douglas (インターディシプリナリー・アーティスト)

ジェシー・シュレシンジャー Jesse Schlesinger (ビジュアル・アーティスト)

ベンジャミン・ヴォルタ Benjamin Volta (ビジュアル・アーティスト)

なお、日米友好基金の主催で下記のウェビナーが行われた。

開催日	テーマ	講師
11月20日	第一回 2020 日米芸術家交換プログラムフェローウェビナー	ジーン・コールマン、中村明一、 鶴澤三寿々、アダム・ヴィディク シス モデレーターミホ・ウォルシュ
2021年 3月20日	第二回 2020 日米芸術家交換プログラムウェビナー Monuments of the Now - 「いま」を刻むこと	スー・マーク、ブルース・ダグラ、 阿部浩之、遠藤夏香、井嶋穂実 モデレーターミホ・ウォルシュ
2021年 4月13日	第三回 2020 日米芸術家交換プログラムフェローウェビナー 「Perseverance through Motion - 忍耐のモーション」	キャメロン・マッキニー、島崎徹 モデレーターミホ・ウォルシュ

F. 助成事業

1. 「アジール・フロタン」復活事業

「アジール・フロタン」とは、ル・コルビュジエが1929年に、救世軍の依頼によりリノベーションした船を、難民のための浮かぶ避難所として設計した作品である。2018年2月のセヌ川の増水により沈没したため、この「アジール・フロタン」の浮上と修復工事そして修復工事後の復活に関わる展覧会等の実施を目的とする事業である。「アジール・フロタン」を復活（浮上と修復）させることは、日仏の文化と建築領域の交流と発信に大きく資するほか、「アジール・フロタン」は1929年にル・コルビュジエに弟子入りをしていた建築家前川國男（会館を設計した建築家の一人）の担当した作品でもあり、日本の近現代建築の貴重な歴史的証となるものである。さらに、「アジール・フロタン」は、難民の避難所として利用され、現代史において社会に果たした役割も大きい。

2019年度内に浮上工事が完了する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大およびフランスの政治状況の影響を受けて延期となり、2020年10月の工事再開により浮上した。2021年3月12日に浮上を記念して行われた日本建築設計学会主催の「浮上報告会」を共催し、本事業を広く一般に広報するための支援を行った。

G. 広報・情報発信

1. 定期・不定期刊行物

定期メルマガに加えて、2020年度は、コロナ禍に対処して臨時メルマガを積極的に利用しアップトゥデートな情報を配信した。

各年度の事業内容をまとめた年次報告書は、2019年度よりウェブサイト上に公開している。

2. アイハウス・プレス

2006年より、出版メディアを通して、会館のプログラム活動の成果を広く一般に発信するとともに、海外における日本理解の増進を目的として、日本人による名著を英訳・刊行して発信する活動を基本として実施している。

2020年度は、これまでに刊行された書籍の販売を継続するとともに、電子化の可能性について検討した。

3. Web、SNSなどによる情報発信

2020年度はウェビナーでのプログラム配信が多かったため、配信後もウェブサイト上で動画を公開し、Youtubeを活用した。Facebook、Twitter、などソーシャル・メディアによるスピーディかつインタラクティブで非接触なコミュニケーションにも継続して注力した。またInstagramを使ったビジュアル発信も開始し、建築的側面からのフォロワー獲得を試みた。

H. 図書室

1. 通常業務

2020年度の図書室サービスにおいては、前年度と比較して来館者が減少したが、貸出は増加した。

	2019年度	2020年度
蔵書		
図書	27,643 冊	27,616 冊
雑誌タイトル	395 種	395 種
受入図書	226 冊	179 冊
購入	109	118
寄贈	117	61
受入雑誌	2,511 冊	2,280 冊
除籍図書	258 冊	206 冊
開室日数	290 日	257 日
来館者	8,991 人	5,371 人
日本人	6,146	3,861
外国人	2,845	1,510
貸出	1,848 冊	898 冊
図書館間貸出	75 件	114 件
依頼	32	90
受付	43	24
レファレンス	933 件	546 件
来館	689	325
電話	70	58
手紙・ファックス	5	28
電子メール	169	135
パソコン利用者	466 人	91 人
図書会員	124 人	121 人
入会	17	20
退会	24	23

(2021年3月31日現在)

2. アーカイブ基盤整備事業

会館に保管されている写真、事務文書、各種の記録など、戦後の文化交流史を語る一次資料の活用を可能にし、総合的な基礎目録をインターネット上で公開することを目的として、3カ年計画（2017～2019年度）で本事業を実施した。2020年度は、今後のアーカイブ資料の保存や活用について検討した。

3. その他

(a) 書籍小展示（共催日仏会館図書室、ドイツ日本研究所図書室）

本小展示は日仏会館図書室、ドイツ日本研究所図書室と共催で行ったもので、同じテーマについて会館では英語の資料、日仏会館ではフランス語の資料、ドイツ日本研究所図書室ではドイツ語の資料を展示した。

開催日	タイトル	展示資料
10月1日 ～ 10月31日	没後50年 三島由紀夫	三島由紀夫に関する英語資料（会館） 三島由紀夫に関する仏語資料 （日仏会館） 三島由紀夫に関するドイツ語資料 （ドイツ日本研究所）
3月1日 ～ 3月31日	3.11から10年	東日本大震災に関する英語資料（会館） 東日本大震災に関する仏語資料 （日仏会館） 東日本大震災に関するドイツ語資料 （ドイツ日本研究所）

(b) その他の書籍小展示

広報の一環として、会館に関係した図書や会館を紹介している図書等の展示を実施した。

開催日	タイトル	展示資料
6月1日 ～ 8月31日	-	「国際文化会館の建築家の意図と建築の価値に関する研究」 鯉坂徹著 『日本建築学会計画系論文集』2019年8月（第84巻 第762号） p. 1845-1852
10月30日 ～ 12月28日	松方コレクション目録・ 関連図書小展示	「松方コレクション」の目録と松方家に関する図書資料
2月1日 ～ 3月31日	-	夢のホテルのつくりかた / 稲葉なおと著 エクスナレッジ, 2020. 12

I. 協力・後援事業

2020年度に国際文化会館は以下の事業への後援を行った。

【後援】

国際シンポジウム

「Understanding and Resonance of East Asia Memorial Conference for Harvard Professor Ezra F. Vogel」(5月17日)

主催：上海交通大学日本研究センター

会場：上海交通大学

VII 国際文化会館の運営

2020年度は、研究個室（宿泊施設／全31室）において、2,933名の宿泊客を迎えた。通常、外国人の利用は60%を越え、国内外の国際交流関係者、学者、芸術家、文化人、知識人の方々が集う施設としての特色を表すが、新型コロナウイルスの影響により、外国人の利用は24.7%と大幅に減少した。

別館に位置する会合施設（講堂／セミナー室）での利用者は7,163名、東館の会合施設（岩崎小彌太記念ホール／樺山松本ルーム）では、4,801名に利用された。

【宴会キャンペーン】

- サマーシーズンランチ&ディナープラン（2020年7月20日～9月13日）
- ウィンター・パーティープラン（2020年12月1日～2021年2月28日）
- スプリング・パーティープラン 開催なし

料飲施設のティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』は、36,321名に利用された。また、食堂のレストラン『SAKURA』は、9,221名の利用があった。

【ティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』キャンペーン・イベント】

- レトロフェア（2020年5月1日～6月30日）
- サマースペシャルメニュー（2020年7月1日～8月31日）
- オータムスペシャル（2020年9月1日～10月31日）
- ウィンタースペシャル（2020年11月1日～12月30日）
- クリスマスディナーセット（2020年12月18日～12月25日）
- 年越し蕎麦（2020年12月31日）
- お正月スペシャルランチ（2021年1月1日～3日）
- お正月スペシャルディナー（2021年1月1日～3日）
- 冬の“あったか”フェア（2021年1月4日～2月28日）
- スプリングスペシャルメニュー（2021年3月1日～3月31日）
- お花見ちらし（2021年3月15日～4月7日）
- 夜桜ステークセット（2021年3月15日～4月7日）

【レストラン『SAKURA』キャンペーン・イベント】

- クリスマススペシャル（2020年12月18日～12月25日）
- 和洋おせち料理（2021年1月1日～3日）
- 新春フレンチコース（2021年1月1日～3日）

- お花見ランチコース (2021年3月15日～4月7日)
- 夜桜フレンチコース (2021年3月15日～4月7日)

以上の結果、別館を含む会合施設および料飲施設の総利用客数は、61,956名となった。また会員懇親の催しとして、以下を開催した。

- クリスマス晩餐会 (2020年12月24日、25日参加者65名)

例年開催のガーデンビアパーティおよびワインパーティは、新型コロナウイルスの影響により、開催を見送った。

サービス活動実績

研究個室

自 2020年 4月 1日

至 2021年 3月 31日

	2019年度	2020年度	増減	前年比
宿 泊 者 数	14,369	2,933	-11,436	20.4%
一日平均宿泊者数	39.3	8.0	-31.2	20.5%
外 国 人 比 率	65.2%	24.7%	-40.5%	37.9%
稼 働 率	71.1%	18.9%	-52.2%	26.6%
収 入 額	¥146,769,990	¥41,651,846	¥-105,118,144	28.4%
一日平均収入額	¥401,011	¥114,115	¥-286,896	28.5%

会議室・婚礼関連・料飲施設

自 2020年 4月 1日

至 2021年 3月 31日

		2019年度	2020年度	増減	前年比
セミナー室	収入額	¥64,267,529	¥21,296,024	¥-42,971,505	33.1%
	客数	26,633	7,163	-19,470	26.9%
	客単価	¥2,413	¥2,973	¥560	123.2%
会議室	収入額	¥224,107,256	¥48,476,442	¥-175,630,814	21.6%
	客数	27,139	4,801	-22,338	17.7%
	客単価	¥8,258	¥10,097	¥1,839	122.3%
婚礼手数料	収入額	¥102,897,800	¥25,140,167	¥-77,757,633	24.4%
	客数	6,721	1,517	-5,204	22.6%
	客単価	¥15,310	¥16,572	¥1,262	108.2%
レストラン	収入額	¥104,771,651	¥56,822,681	¥-47,948,970	54.2%
	客数	16,901	9,221	-7,680	54.6%
	客単価	¥6,199	¥6,162	¥-37	99.4%
ラウンジ	収入額	¥117,044,833	¥69,985,419	¥-47,059,414	59.8%
	客数	63,643	36,321	-27,322	57.1%
	客単価	¥1,839	¥1,927	¥88	104.8%
合計	収入額	¥613,089,069	¥221,720,733	¥-391,368,336	36.2%
	客数	141,037	59,023	-82,014	41.8%
	客単価	¥4,347	¥3,757	¥-590	86.4%
一日平均	収入額	¥1,675,107	¥607,454	¥-1,067,653	36.3%
	客数	385	162	-224	42.0%